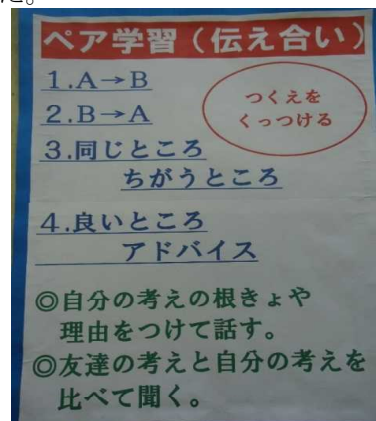


### 3 学習環境部

#### (1) 対話的な学びについて

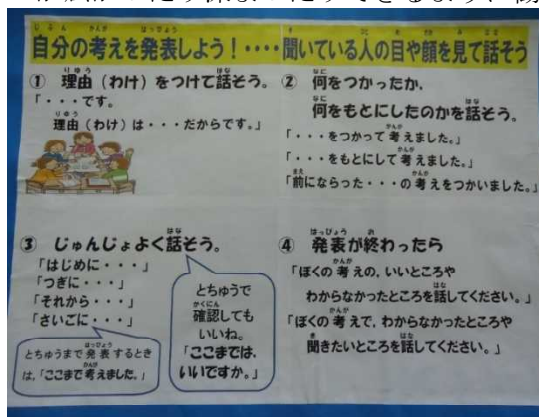
昨年度までの研究から、本校でさらなる学力向上を図るためには「対話的な学びの充実」が必要であることが明らかになった。今年度は「対話的な学びのモデル図(別紙3)」を作成し、各学年の発達段階や児童の実態に応じて活用することとした。モデル図では対話の目的を「比較」「選択」「拡大」「融合」と4つに分類し、それぞれに目指す児童の姿を3つのレベルに分けて明記した。教職員で共有することで授業者は対話の目的を明確にもたせることができるようになり、参観者は児童の姿がどのレベルまで高まったかを判断する共通の基準をもつことができるようになった。

対話的な学びはペア学習を基本とし、各教室にはペア学習の進め方の基本モデルを掲示するようにした。児童は教師からの指示・発問を受け、目的に応じて考えを比較したり融合したりすることができるようになってきている。はじめはノートを交換して見せ合ったり書いたことをそのまま読み上げたりするだけで学習が完結していたが、研究が進むにつれ、自分の思いをより分かりやすく伝えようとする児童の姿や、なぜそのように考えたのかを説明する児童の姿が見られるようになってきている。

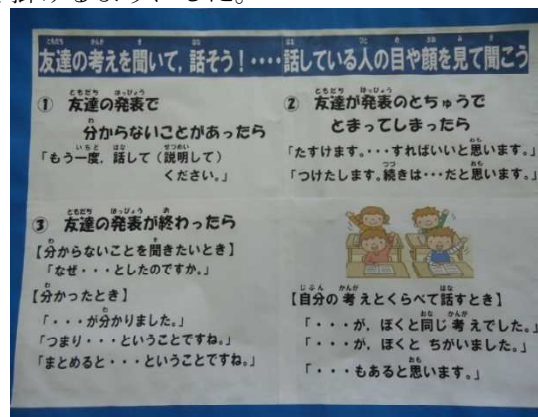


<ペア学習の基本モデル>

本校ではさらに、対話的な学びを充実させるために、話し手と聞き手に身に付けさせたい対話のスキルを設定し、「対話的な学びのモデル図(別紙3)」に明記した。教室にも児童用に書き換えたものを掲示し、対話的な学びを通して自己の見方や考え方が広がったり深まったりできるように働き掛けるようにした。



<話し手に身に付けさせたい対話スキル>



<聞き手に身に付けさせたい対話スキル>

#### (2) 家庭学習について

家庭学習は研究の視点2-イを受け、授業での学びと家庭での学びを連動させることを重視してきた。家庭学習での学習感想を次時の課題設定に生かしたり、授業で疑問に思ったことを家庭学習でさらに追究させたりすることで、児童の「もっと知りたい」という思いを引き出すことができている。

家庭で学習したことは「気小っ子はなまるカード」に記録させるようにしてきた。学

習内容のほかに全国学力・学習状況調査の結果を受け、テレビやゲームの時間の記録も記入させるようにした。

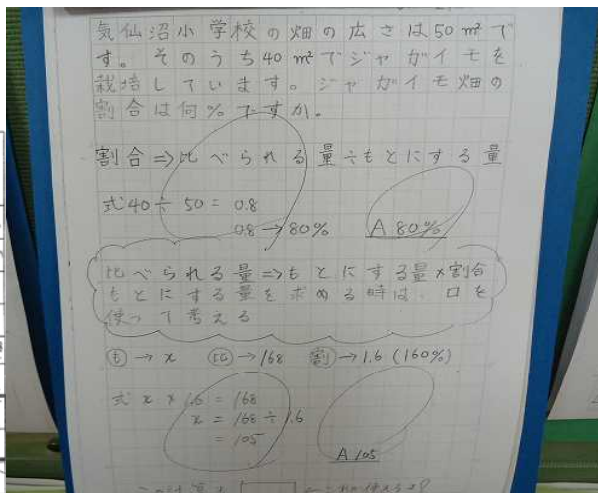
各教室には優れた内容の自主学習ノートを掲示したり、児童が作成した問題を提示したりすることで学校全体で家庭学習の内容の充実を図るようにしてきた。授業中のノートの使い方や友達の自主学習への取り組み方を参考にし、自己の家庭での学習の仕方を改善しようとする児童が多くなってきている。

気小っ子はなまるカード(2・3年) 学年 2年

各月の家庭学習のめやす **テレビ・ゲームの時間を20分より少くする。**

☆テレビを見る時間は、ゲーム時間と合わせて120分より少なくしましょう。

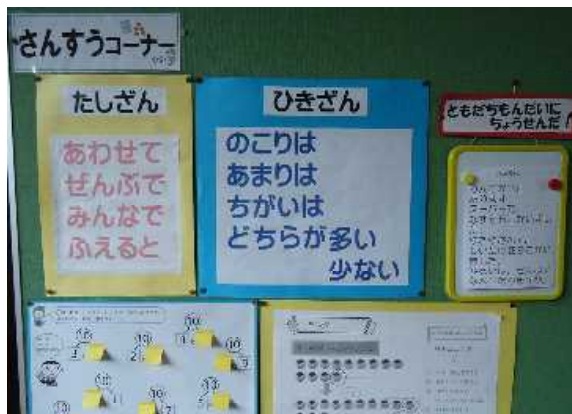
8月	習熟・読書	評価(◎○△)	学習		テレビ・ゲームの時間(分)	家の人との関わり	先生のサイン
			プリント	自主学習 読書・計算等			
28	おはな	◎	○	○	50	120	60
29	おはな	◎	○	○	50	10	
30	おはな	◎	○	○	40	120	
31	おはな	◎	○	○	40	10	
9月							
1	おはな	◎	○	○	40	150	PPP
2	おはな	◎	○	○	60	60	PPP
3	おはな	◎	○	○	60	60	PPP
4	おはな	◎	○	○	60	60	PPP



<「気小っ子はなまるカード」>

<各教室の自主学習紹介コーナー>

(3) 学習環境を整えるための掲示物等の工夫



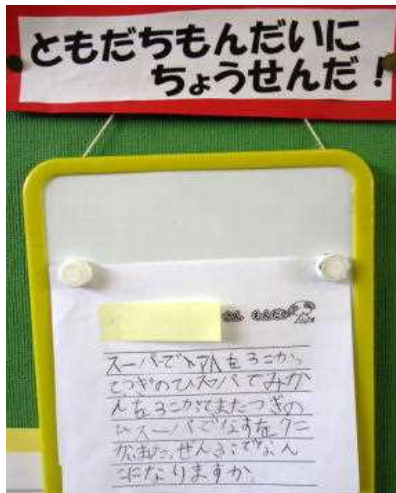
<各学年の算数コーナー>



<算数クイズを楽しむ掲示物>

教室や廊下の掲示コーナーを利用し、「算数コーナー」を設置した。児童が作った学習成果物を掲示したり、教師が既習事項を整理して掲示したりすることで、「これまでに学んだことを今日の学びに生かそう」と意識するようになってきた。同様に付箋を使って既習事項をクイズのように掲示することで、児童が休み時間を使って楽しく復習できるように工夫した。授業の導入時には休み時間に熱心に算数コーナーで学習に励んでいる児童の取組を紹介することで、全ての児童に基礎・基本の習得への意欲をもたせるように働き掛けてきた。





＜友達問題コーナー＞

家庭学習では学習したことを生かして解く文章題づくりに取り組み、児童が作ってきた問題を教室に掲示するようにした。

休み時間になると付箋に書いた式や答えを児童同士で見合い、お互いが考えたことを進んで話し合う姿が見られるようになった。

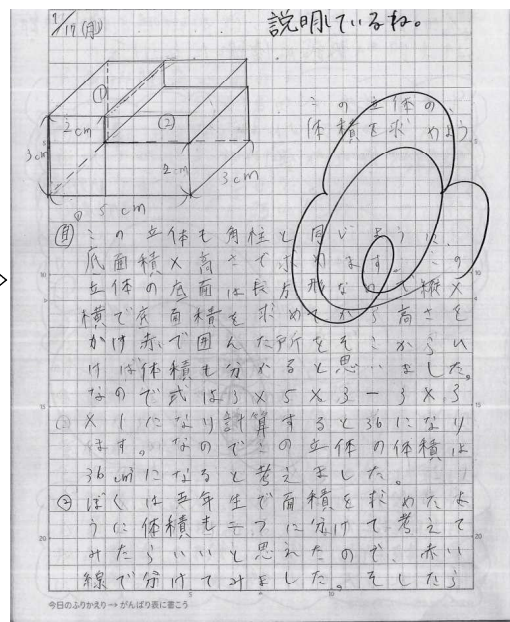
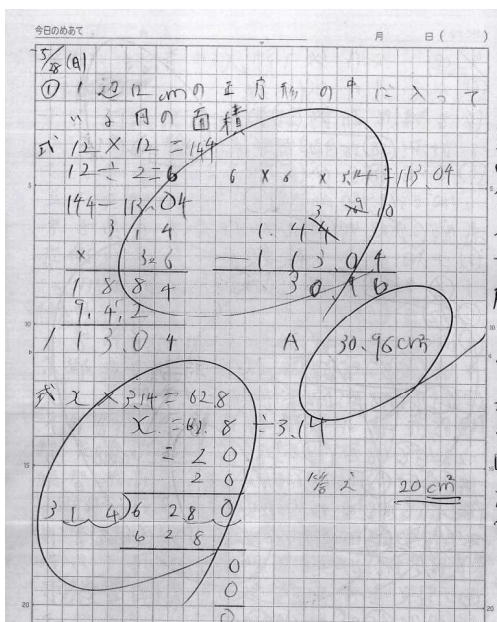


＜教材文の全文掲示＞

低学年の国語科の物語文の授業では、拡大した物語文を教室に全文掲示し、授業の中で活用した。「おもしろいと思ったところ」「登場人物の不思議な行動」などに付箋を貼らせたり、教師が重要な語句や表現にサイドラインを引いたりしながら読み取りの場面で活用するようにしている。

前時までに全員で読み取ったことや大事だと判断した場面の様子を共有できるため、読み取りが浅い児童にとっては大変効果があった。

(4) 児童の変容 (家庭学習への取組の様子)



同一児童の家庭学習ノートと比較すると、9月のノートには解決までの見通しを含め、自分がどのように考えて答えを導き出したのかが記述されている。振り返りには既習の見方・考え方を活用したことが書かれており、次時の導入時に紹介して課題設定につなげた。

#### IV 研究の成果と課題

##### [視点1] 主体的・対話的に深く学ばせるための授業改善について

つかむ・見通す段階	<p><b>ア 思いや考えをもたせる工夫</b></p> <p>○<b>気付きや疑問の共有</b> 対話を通して児童に問題場面に関する疑問や気付きをもたせ、全体で共有することができた。教師が多くを語らずとも児童が自ら疑問や気付きを述べるが多くなり、解決までの自分なりの見通しをもつ児童が増えた。</p> <p>○<b>学習内容の焦点化</b> 前時までに学んできたことと本時に学ぶ内容の違いを確認することで、授業の導入時に「今日の勉強では何ができるようになればよいのか」を児童が意識するようになり、主体的な学びへとつながった。</p> <p>●<b>学習時間の確保</b> 問題場面を適切につかませ、解決までの見通しをもたせるために、課題解決の段階に入るまでに時間がかかり過ぎてしまうことがある。指示や発問をできるだけシンプルにするとともに、ICTを活用することや掲示物の工夫をすることで改善を図っていく必要がある。</p>
解決する段階	<p><b>イ 思いや考えを伝え合わせる工夫</b></p> <p>○<b>学習過程と学習形態</b> 学習過程のイメージ図（別紙2）や対話的な学びのモデル図（別紙3）に沿って目的に応じて段階的に学習形態や対話のさせ方を工夫することで、児童の思いを大事に扱う学びを展開することができた。</p> <p>○<b>教室の雰囲気</b> お互いの考えを尊重し合う雰囲気が低学年の教室からも見られるようになった。間違いを指摘するのではなく、協働的にさらにより考えや方法に到達できるよう引き続き励ましを続けていくようにしたい。</p> <p>○<b>教科・領域を横断した見方・考え方の育成</b> 課題解決のために他教科・他領域での学びを活用しようとする姿が見られるようになった。特に海洋教育の授業は学年を超えた学習内容の継ぎ目となることが多く、児童が友達や教師との対話を通して既習事項を整理し、学習を振り返ることが多くなった。</p> <p>●<b>対話的な学びの目的</b> 課題解決のための対話的な学びだが、対話の目的や方向性がずれ、児童だけの力では修正できないことがある。活動の目的をキーワードで黒板に示すなどして、児童に意識させるような手立てがさらに必要であると考えている。</p>
確かめる段階	<p><b>ウ 学びの成果を実感させる工夫</b></p> <p>○<b>振り返りのさせ方</b> 授業の終末段階を「何が分かったか」で締めくくるのではなく、適用問題を解かせたり自分の考えの変容に目を向けさせたりすることで「何ができるようになったか」で締めくくるようにしてきたことで、児童が振り返りの中で本時の学びの成果を発言したり記述したりできるようになってきた。</p> <p>○<b>個に応じた働き掛けの在り方</b> 予想されるつまずきに応じてヒントカードを準備し、効果的に活用させることで、児童の学習意欲を維持することができた。</p>

## [視点2] 自ら学ぼうとする学習意欲の構築について

### ア 習得と活用の場の工夫

#### ○指導計画の改善

指導計画に活用と習得のどちらを重視する時間なのかを明記していくことで、児童に学習の見通しをもたせるだけでなく、教師も単元全体の指導の見通しをもつことができた。同時に単元のねらいの達成のためにカリキュラム・マネジメントを協働的に行ったことで、学習内容の系統性について職員で共通理解することができた。

#### ○スキルタイム・放課後学習支援を活用した補充・発展学習

授業の進度に合わせて復習に重点を置いたスキルタイム・放課後学習支援を実施したことで、児童に「できた」「分かった」という思いをもたせることができた。スモールステップでの目標達成を繰り返すことで「もっといろいろな問題に挑戦したい」という意欲をもつ児童も多く見られるようになった。また、上位層の児童には全国学力・学習状況調査を受けて作成したチャレンジ問題や「みやぎ単元問題ライブラリー」のジャンプ問題を与えて挑戦させることで、自ら解決までの見通しをもち、身に付けてきた見方・考え方を生かし思考する姿を引き出すことができた。

#### ●各教科・領域の学習に対する関心・意欲・態度

自ら学ぼうとする学習意欲の構築を目指したものの、学年によっては国語科や算数科の学習に対する学習意欲が高まらなかった。要因は児童それぞれの考えを授業の中で生かし切れなかったことと考える。全体での共有の前にペアやグループ内で対話させる時間をこれまで以上に確保し、自分が考えたことや記述したことが友達の学びにも役立っているということを実感させていくことで改善を図っていくようにしたい。

### イ 家庭学習の工夫

#### ○学習内容と家庭学習の連動

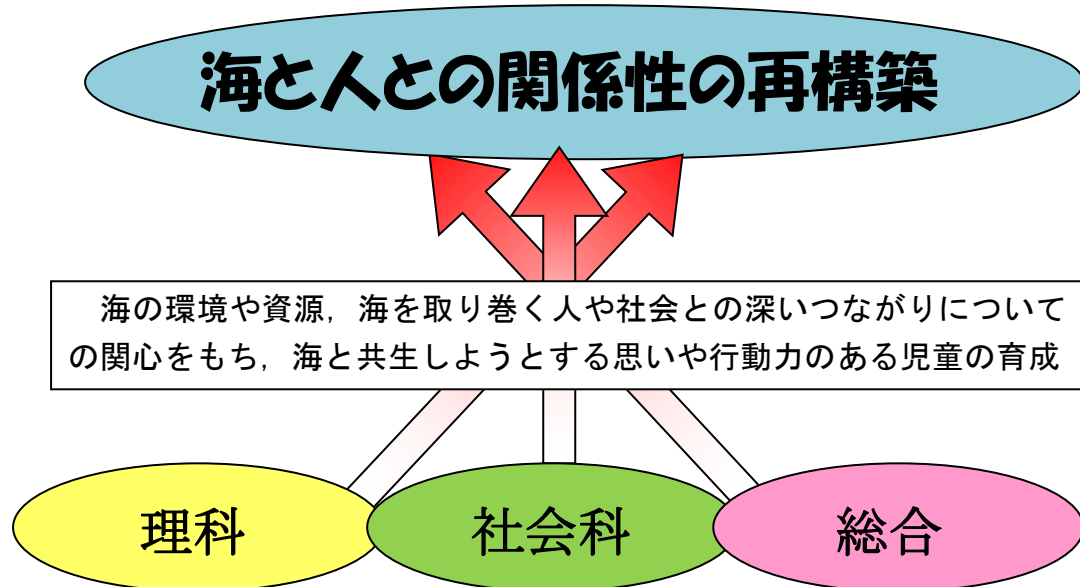
授業で疑問に思ったことや学習内容に関連する時事ニュースについて家庭学習でさらに追究させる活動を通して、新たに獲得した知識や技能、自分なりの見解を授業中に進んで発言するようになった。また、家庭学習を通して疑問に思ったことや、今後さらに調べてみたいと思ったことを次時の学習課題として設定することで、より強く課題意識をもって学習活動に取り組む児童が増えた。

#### ○家庭学習の内容の充実

学習過程のイメージ図（別紙2）を毎日の授業に積極的に取り入れることを継続してきたことで、1時間の学習の流れが教師だけでなく児童にも浸透してきている。ノートの使い方についても改善が見られ、自分なりの振り返りや今後の学びにつながる学習感想を記述できる児童が多くなった。学習環境部で作成して配布した「家庭学習のメニュー」を参考に、児童が計画的に家庭学習に取り組んでいくことを目指していきたい。

# 海洋教育クロスカリキュラム

海洋教育部



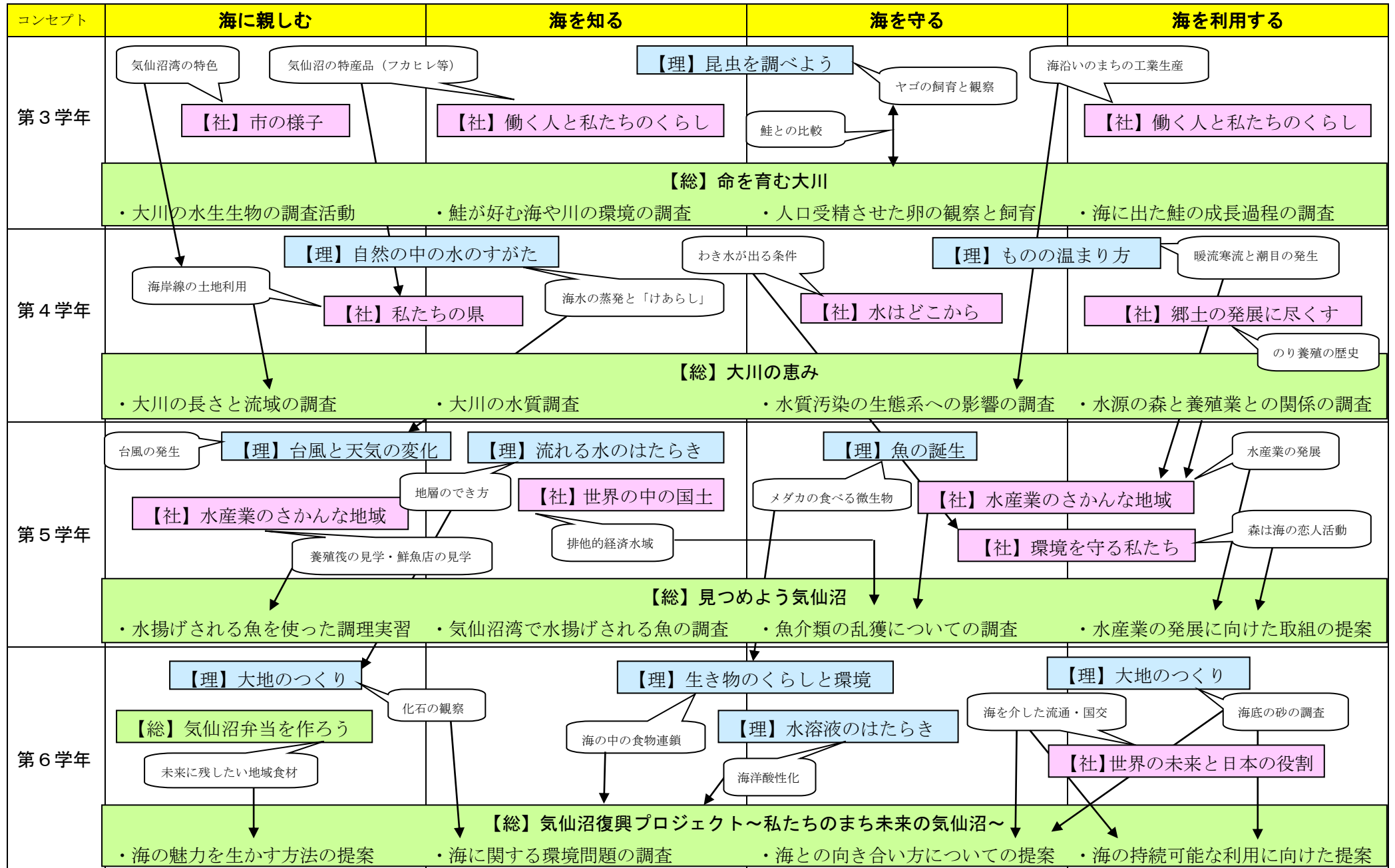
## 海洋教育のコンセプト

(海洋政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より)



【東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターHPより抜粋】

(<http://rcme.oa.u-tokyo.ac.jp/>)





## 授業改善アンケート

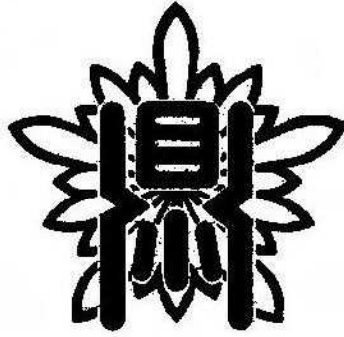
氏名( )

普段の授業実践について当てはまる選択肢に○印を記入してください。(個別の授業ということではなく、普段の授業について全体的にどうか教えてください。)


- 5 当てはまる, 取り入れている  
 4 どちらかといえば当てはまる, どちらかといえば取り入れている  
 3 どちらともいえない  
 2 どちらかといえば当てはまらない, どちらかといえば取り入れていない  
 1 当てはまらない, 取り入れていない

1	児童が自ら問いを見いだす(課題を発見できる)よう教材や発問を工夫していますか。	5 4 3 2 1
1-a	児童の興味・関心を高めるような教材の提示を工夫していますか。	5 4 3 2 1
1-b	生活経験や既習事項をもとに生まれた疑問や気づきを児童に発言させていますか。	5 4 3 2 1
2	児童が学習の見通しをもつよう工夫をしていますか。	5 4 3 2 1
2-a	めあてを児童との対話を通して設定していますか。	5 4 3 2 1
2-b	何がどのようにできればよいのかがとらえやすい, 簡潔で焦点をしばっためあてを設定できていますか。	5 4 3 2 1
3	児童一人一人に自分の思いや考えを伝え合わせる時間を設定し, その在り方を工夫していますか。	5 4 3 2 1
3-a	二人で, あるいはグループで話し合わせ, 学習が深まるように工夫していますか。	5 4 3 2 1
3-b	対話の目的を明らかにし, 話し合いの方向性がぶれないように働きかけていますか。	5 4 3 2 1
4	児童一人一人に学びの成果を実感させる時間を設定し, その在り方を工夫していますか。	5 4 3 2 1
4-a	対話を通じた考えの変容や深まりを見取り, 認めることができますか。	5 4 3 2 1
4-b	学びの足跡がよく分かる板書をつくることはできていますか。	5 4 3 2 1





 日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

 東京大学海洋アライアンス  
海洋教育促進  
研究センター

 笹川平和財団

 海洋政策研究所